

平成 30 年 2 月 市政クラブ・無会派合同

農業における ICT 技術活用について
視察報告書

視察日：平成 30 年 2 月 17 日実施

視察先：奥野田葡萄酒醸造株式会社

場 所：山梨県甲州市

参加者：

無 会 派：西田稔

市政クラブ：渡辺甚一、沼津光夫、北村征男、松葉晴彦、
溝端甚一郎、今井武男

市政クラブ・無会派 視察報告書

報告者 西田 稔

1. 期 間 :平成 30 年 2 月 17 日
2. 視察先 :奥野田葡萄酒醸造株式会社
3. 視察項目:農業における ICT 技術の活用について
4. 視察目的:高山市において農業は主要な産業の一つである。しかし近年、
農業者の高齢化や後継者の不足といった問題も顕著になってきているが、問題解決の一つの方向性に ICT 化がある。先進地に
学び高山市の農業振興にどう生かすか調査・研究を行う。
5. 視察内容:
 - ・湿度と温度の両方が高い状態が続くと、畑にはカビ系の病害が発生しやすくなる。そのため、湿度と温度の動向には常に気を配る必要があるが、たまたま目を離して家でくつろいでいる際にそうした天候に見舞われ、病害が一気に広がってしまう危険性もある。ICT 導入により、いつでもどこにいても常に畑の状態をリアルタイムで確認でき、いち早く危険を察知して先手を打つ事ができる。このおかげで、山梨全域の畑が病害にやられた年でもこの葡萄園だけは例年通りの収穫をあげることができたという。
 - ・相模湾の潮位の話
相模湾の潮位があがると山梨県甲州市一带の地下水位があがる。すると作物は緊張する。だから作物には触らない(剪定や芽かき等)。
逆に地下水位があがることで下草、雑草は元気になり、それを食べに来る昆虫が増える。そのため下草の管理が必要となる。
これはすべての植物に共通するという。
6. 考察
高山市の農家の意見を確認した。トマト農家はもう遅いくらいだと教えてく

れた。「飛騨の場合温度だけ、湿度（飽差）であったり土壌の EC（電気伝導度）や pH であったりまた肥料であったりだけでも良い。

ただ、今試験場が出している数字があっているかどうかが問題。その数字をちゃんと出せる企業とのコラボは必要である。部分導入を考えるとということである」と回答。

逆にこちらからこれから導入したい ICT 技術はと聞くと、「1 番は細霧冷房。温度と湿度の管理ができる。自動灌水 EC 管理ができる」とのことであった。

細霧冷房はすでに高山市でも取り入れている農場がある。「これをちゃんとしたデータで管理する事が大事。勘ではなくて」と語ってくれた。

また「飛騨で何が導入できて何が無理なのかをしっかりと考えたら、労力の軽減、また収量の増大ができるんじゃないかと思う」と語ってくれた。

また、畜産業の現場においては「高山市で畜産にすぐに取り入れたい。ICT 化によって生産量は上がるし失敗も減ると思う」と語ってくれた。

さらに「最先端のセンサーや通信を利用した畜産 ICT で、経営や生産をきっちり管理できる生産現場を創造していく必要がある。出産時の事故が多いので高山市として予算化すると良い」と語ってくれた。畜産において ICT の活用により分娩時の事故や子牛の死亡率低下が期待できる。ICT の導入は喫緊の課題であると結論づけたい。

以上